定價 一部金貳錢 一ヶ月卅錢 郵税五厘
廣告料 五號十二字詰一行 五十錢
休刊 日曜大祭日ノ翌日 祝日ノ翌日
發行所 福島縣石城郡平町長橋町三五 常磐毎日新聞社 電話六三〇番

常磐毎日新聞

十二月一日夕刊

發行兼編輯人 印刷人 川崎文治
本社ト同番地 印刷所 常磐毎日印刷所 （電話六三〇番）

常磐毎日新聞

簡單なチラシ染色法

南谷生

（一）

元來、活版刷のチラシは比較的安く出來て居ますが石版刷の樣に綺麗で、感じのいゝのになると、値段が石版刷の約三倍位に、付いて居ます。それでも一萬枚以上作るのなら左程でもありませんが、千枚や其所等位では石版製作代の方に喰込まれてとても算盤が取れません、と云つて活版刷では思ふ樣な廣告も出來ません。そこで、安く感じのいゝ、人目を惹く樣なものを作り出さうとするには、自分で活版刷のチラシに彩色するより他にありません、ところが筆や版で色を付けたのでは時間が非常にかゝる上に感じのいゝ色を出す事は到底不可能であります所が此處に一法があります之は香水撒布器を利用して香水の代りに色水を入れ、一定の型を置いて、色水の霧で染色するのであります之を使へば色の濃淡も自由に出來、斑が殆んど出來ませんから、見た目が非常に氣持よく、又直ぐ染色し終へる所が其特徴であります

之に最も適した染色機の作り方もありますが、素人が作つたものでは手數のかゝつた割合に何千枚、何萬枚と澤山染色する爲めに、どうしても早く壞れたり霧がよく出なかつたりしますから、丈夫さうな香水撒布器（霧吹器でも、其一端に護謨球のついて居るのなら可）を一つお求めになつた方がいゝと思ひます、此の大體の恰好は護謨球、及び色水の入つてゐる器、護謨に連なる管と、色水に連なる管と三つの部分から出來てゐてゴム球さへ握れば霧が出る仕掛になつてゐます

（つゞく）

兎肉 一品料理 開店
安く美味なのは兎肉の特長です
『兎肉の罐詰は一名月見券 東京三越にて賣出し好評の罐詰です御注文次第遠近に拘らず出前迅速に配達致します』
公設市場
平町役場前
（電話呼二五四番）

醫療器械 衛生材料 寫眞器械 度器計 關内藥局
電四〇番

◇小僧さん募集
十二、三歳一名
右至急募集す
本人來談の事
平町三丁目
海産物雜貨商
阿部榮藏商店

『他ノ藥ニテ効能無キ御方ハ龍功散ヲ呑ンデ卓絶スル効能ヲ御試下サイ』
登録 商標
龍功散
たんせき ぜんそくの妙藥
本舗 渡邊龍功堂
平町三丁目電話百八番

内科・外科・花柳病科 耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
平町田町電話四七五番

轉居
今般左記へ轉居仕候間此段御通知申上候
東京本郷區駒込上富士前町九十番地
白井遠平
電話小石川一七九

平町 紺屋町
吉田眼科醫院

モートル
電氣機械器具各種材料販賣 電燈電力工事設計並ニ請負
製作ハ日立製作所
販賣ハ磐城工業商會
株式會社日立製作所特約店
東京電氣株式會社特約店
モートル、變壓器の修理を致します
常磐線平町四丁目
電話一一八番
磐城工業商會
中村佐治助

公債 債券 賣買
大正生命保險株式會社 平代理店
多田井質店
平町大工町

手拭、消防被服 印半天、風呂敷 專染所
小店員 弟子さん 募集
吉田屋染工場
平町五丁目
電話五五八番

◇助手募集
男子（十五歳ヨリ）女子（十八歳マデ）各一名宛
右至急募集す本人來談の事
平町南町（電話四十七番）
芹澤自動車部
停留場 磐城銀行向

新發賣
徳用袋入
森永（煎茶）山城（百二十匁入 一圓五十錢 六十匁入 七十五錢 三十匁入 四十錢）
森永（ほうじ茶）かほる宇治（百二十匁入 八十五錢 七十匁入 五十錢 四十匁入 三十錢）
◇森永宇治茶袋入は、實質本位のお茶で最も徳用品で御座います
◇森永のお茶は、本場山城の理想工場で精製致しました、生粋宇治茶でありますから他に得られぬ香味を保有して居ります
◇菓子店食料品店茶舖にあり
代理店 マツモトヤ

靈藥酒

養命酒
藥酒
特約店
福島縣平町五丁目
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎

京都産出瓦斯コークス特約販賣 有聲座隣
遠藤パン

官許 藥 正明丹
代價拾錢
藤田家傳
平町田町電話三三八番
藤田榮助

紀念石、彫刻石
土木建築請負
石炭販賣
岩石材販賣
（何れも大勉強）
喜多林之助
平町月見町

昨夜の町民大會
物々しき警戒裡に
四倉有志愛町の熱辯を揮ふ
宣言決議を可決……

四倉町民が海岸地帶拂下げを忍かに企てた町議吉田壽三郎氏に對して激憤を感じ大紛亂を來した事は既記の如くであつて吉田氏は早速拂下げ

申請を 取り下げた爲め一先づ問題は解決し町民大會も中止する事の諒解も成立するに至つたが突如吉田氏が全町に配布した釋明書の中に曖昧に曲筆した點があると云ふので更らに町民側の激昂する所となり飽迄同町議を糺彈せざるべからずと爲し昨日午後六時半より

四倉座 に町民大會を開き場内は愛町の士を以つて埋るの盛況を呈したが是れより先き萬一騷擾を來すが如き場合ありては一大事と宮崎檢事は木田書記を隨ゑて同町に急行し且つ樫村平警察署長も警官廿餘名を從えて應援に出張四倉分署にては管内の巡査全部を召集會場の内外を

嚴重に 警戒する所あり極めて物々しき形勢を描き出したが定刻佐藤廣次氏開會の辭を述べ門馬公平氏が座長席に着き左記宣言及び決議を朗讀滿場に諮り萬雷の如き拍手を以つて可決次いで實行委員を武藤豊植田三郎、門馬公平、佐藤廣次の四氏に定め吉田彌十郎氏外五六の諸氏が交々起つて熱辯を揮ひ午後九時半

盛會裡 に閉會を告げたが散會後前記の實行委員は吉田滿山兩氏を訪問反省を促す所があつたと

宣言

町會議員は役場吏員と結托し不正行爲を爲すに至りては四倉町の滅亡も近し吾等は起つて糺彈せよ

決議

町會議員吉田壽三郎氏に一切の名譽職を辭せん事を迫り一方役場書記滿山氏に辭職を迫るものとす

大瀧發電所には
飽迄反對である
▽……井上氏が言明

縣議井上茂作氏が福島在勤の時事新報記者に對して大瀧發電所に賛意の口を洩らした旨の記事が數日前の同紙に掲載されたるに對し井上氏は非常な迷惑を感じ左の如く説明した

『果して斯くの如き次第を答辯したかと各方面から追求されて自分は非常な迷惑を蒙つて居るが時事新報の記事は自分の答へを全々誤り傳へたものである、夫れは同紙の記者が自分に對し「水野郡長が調停に入る模樣だが條件に依つては大瀧發電所に賛成して妥協するかどうか」との事であつたから郡長の調停云々は未だ公式な型ちに依つて現れて居ないから自分は先の漆畑、青沼兩氏の調停案に基き若し無害有利のものなれば大いに賛意を表する、然れ共大瀧發電所はどうしても無害有利也と信じ得べき調査の結果を示して居ないから自分としては依然として反對の立場に立たねばならぬと答へたのである』

景氣の轉回を語る
出入貨物の動態
昨年同期に較べて
▽……平驛の激增割合

關東大震災直後に於ける復興材料をはじめ一時潮の如き勢ひを以て集中したる

各種貨物 の集積過剩から之を消化するに可なりの時日を要した爲昨年來木材その他一部の貨物が却て中央より地方へ逆輸入の變調を來し隨つて昨年中に於ける各地の貨物出入は甞て見ざる不

活潑の裡 に經過ししつゝあるものゝ如く之を平驛に就て調て見ると十一月の出入貨物噸數は次の如くで各種類を通じ前年同期に比して出入とも一割乃至五割の增加を示してゐる

到着

種別	本年度	前年度
石炭	九〇〇噸	六〇〇噸
木材	六九〇	六六〇
米穀	六〇〇	五三七

發送

果實	一四〇	六五
木炭	二五〇	二一一
木材	三五〇	三〇〇

以上の如き狀態で殊に過般來石城郡泉驛、茨城縣關本驛等から秋刀魚の發送激增した爲

幾分貨車 の不廻りを來し更に本年より郡農會斡旋に係る石城名産八夜柿の發送も夥しき增加を示してゐる

祝儀酒に醉ひ
浴場で往生
六十七の老爺

石城郡磐崎村大字上湯長谷字長倉居住東白川郡棚倉町生れ長倉炭礦雜夫白坂半次郎(六三)は去る卅日午後十一時四十分頃裏長屋の祝儀に招かれて鱈腹酒を飲み歸宅後風呂に入つた儘仲々出て來ないので婿の巳代松が浴槽を捜し見たるに半次郎は風呂に這入らんとし上り台より足を踏み辷らし浴槽内に轉倒し多量に酒を飲んで居た爲め身体の自由を失して溺死したものであると

左手をもがれ
ヒン死の重傷
齒車に食はる

石城郡磐崎村大字上湯谷字梅ケ平小野田炭礦喞筒運轉夫關山辰五郎(五八)は去る廿八日午前一時頃喞筒小屋の當番にて北枕を爲し休んで居たが機關に水の通らないのを發見鐵管に應急施工せんとボロキレを持つて[illegible]所に赴かんとせる際モーターの附近に轉倒し左手を齒車に食はれてもがれ其他身体數ケ所に重傷を負ひ生命危篤であると

家庭欄

霜月頃の惣菜料理

▲白菊汁 青々とした菊の葉をざつと熱湯に通し、直ちに上げて椀の底に二葉程敷いて置きます、豆腐を適宜の大きさに四角に切りその四角の一つゞゝを厚さの三分の二だけさいの目に切つて椀の眞中の菊の葉の上に置きます、この切目が開きますと、白菊のやうに見ねます、ひね生姜の皮をむいておろして豆腐の眞中に置きます、すると丁度菊の花の芯のやうです。別に昆布と鰹節の煑出しをとり醬油で薄加減の味にして汁を作りそれを椀に入れます

▲包み肉 引肉は五十匁で十人前玉葱と馬鈴薯の皮をむいて細く切り油揚一枚を二つに切つた中に前の引肉玉葱芋と鹽胡椒とを少し入れて油揚を二つに折り乾瓢でくゝりそれを煑出し砂糖醬油で甘鹹く煑ます

物騷な歳の暮に
泥棒防ぎの虎ノ巻
樫村平署長が御傳授
必らず心得置くべきこと

歳の暮が押し詰るに連れて例年多くなるのはしのび込みあき巣ねらひかつぱらひ板間かせぎ等です、しかも夫れらの大部分は戸締の

不注意 や家人の油斷からです、樫村平警察署長は『錠前の良し惡しよりも私の研究では不注意や油斷から難に遭ふものが多い一般の注意としては戸のふし穴から内が見られぬやうに目ばりをすること、玄關の戸以外にも

雨戸を あければ眼がさめるベルを備へつけて置くこと其の代り張板裁縫板を立てかけて置くのも妙だ、又窓硝子をこはして鍵をあけるこいふのも稀にはあるが殆ど百件に一件位である、それよりも

寢る前 一度鍵がよくかゝつてゐるか何うかを見る方が肝腎である、夫れから家を留守にする場合留守居のないのは物騷だ却つて戸閉りをよくして出ると不在だと廣告してるやうなもので空巣ねらひに襲はれる惧れがある、かつぱらひの內では

店先の 品物と自轉車であるが、自轉車には必らず鎖をつけて欲しい。眼をさまして騷ぎ立てたために居直りになる者が多いものだが、そんな場合には私は絕對の無抵抗主義をお奬めする其の代り

犯人の 相、服裝年齡などを覺ゑておき指紋のとれるやうに賊のふれたものには手をつけないで屆けて欲しい』

平町の
野犬狩り
農作物を荒す

平町には畜犬として町役場に屆出あるは六十八頭であるが近頃野犬が增加し農作物を荒して困ると云ふので町農會は近く野犬狩りを行ふ由

昨夜の烈風
屋根をむく

石城郡好間村大字上好間字上の原松本排次郎方にては昨夜の烈風に屋根を吹き捲くられ大騷ぎを演じたと

◇◇◇◇◇
幕なし忠臣藏

近く平町に高松宮殿下御台覽の榮を辱ふした幕合なしの忠臣藏芝居の一行が乘込む筈で未だ何處の劇場とも決して居ない模樣であるが開場の曉には多分好劇家の好評を博す事であらう

平町人事

▲出生

△四丁目四一 當時小倉市當城内高崎秀夫氏三男洋三
△長橋町三一 鈴木德義氏長男德次郎
△材木町一七 栗城千代藏氏五男昇
△鎌田町五 影山某作氏三女イシノ
△三丁目二二 神奈川縣大根村馬目悅善氏長女瑞子